

()マンション 震災対策コミュニティ・タイムライン(震度6弱以上の地震)

班	担当	震度6強地震で予想される被害・状況	主たる任務	事前減災目標	訓練基本内容	訓練内容	発災後1時間以内
統括 情報班	◎理事長 ○副理事長 ○副理事長 ○防災委員長	マンション躯体被害 危険箇所発生 エレベーター停止・閉込め 排水管損傷	全体統括 管理会社との連携 防災拠点との連携 生活再構築 修繕への取り組み	マンション地区防災 計画確立 年間防災活動計画 居城者防災マニュアルの毎年見直し	1 災害対策本部 立ち上げ 2 安否確認集約 3 館内放送 4 全体指揮	災害対策本部開設訓練 館内放送訓練 (誰でもできるように)	〇〇市震度6弱以上 各部立ち上げ 理事・防災班は、自身 後、各階の安否情報を 周辺火災の情報収集 〇火災がある場合、広 園一帯)への避難は指 判断による避難は妨
	情報班 ◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	安否確認見過ごし による「震災孤独 死」(を〇に)	安否情報集約 被災情報管理 要援護者情報管理 住民への情報伝達	安否確認表の準備 住民防災情報の集約 個人情報に留意) エレベーター停止掲示 生活規則 (汚物・ゴミなど) 事前に作成しておく	1 トランシーバー で安否確認集約 2 ラジオ等で災 害情報収集 3 災害への対応 情報掲示	16:30 集会室集 合 ヘルメット等装着訓 練 各班訓練用具展開	最上階に人員と機材 を上げ、上から安否 確認をして本部、対 応班に連絡
救出 消火 救護班	◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	家具転倒要救出 部屋閉込め 震災孤独死(を〇 に) エレベーター閉込 め 室内での火災 (停電でも数時間 は火災報知器鳴 動) 病院搬送遅れに よる未治療死(を 〇に)	【救出・消火関連】 初期消火 救出活動 近隣救出活動 要援護者移動支援	家具固定推進 (ポスター等)	1 初期消火訓練 2 救出機材展示 3 救出訓練 4 搬送訓練 (担 架・車いす等) 5 家具固定呼びか け	16:45 館内放送訓 練 16:50 各担当階 東エレベーター前 集合	非常階段を下りなが ら館内被害状況確認 エレベーター確認・停 止なら業者に連絡
			【救護関連】 応急手当て 市民トリアージ 負傷者搬送手配 要援護者ケア	軽症者は各家庭で手 当てできるように応急 セットの備蓄呼びか け	1 応急手当て訓練 2 AED訓練 3 搬送病院の説明 4 搬送方法の説明	17:00 地震発生 放送 17:00 出てきた 人に声かけ、集 まってもらう。 説明	火災発生なら、119 番通報し、近隣、階 上避難誘導別階から 消火器を持参して対 応 応急手当て 心肺停止ならばAED

生活物資班 (初期は救護支援)	◎リーダー ○副リーダー ・メンバー1 ・メンバー2	停電 断水 トイレ不可 高層階孤立	(ライフライン関連) トイレ対策 水対策 ゴミ対策 電源対策	エレベーター非常時 セット管理 水、食料、トイレパッ ク備蓄の呼びかけ (最低三日分)	1 トイレパックの実 演・説明 2 地下受水槽水質 検査(塩素濃度あれ ば飲料可)と水組み 上げ訓練	トランシーバーで情 報伝達訓練 集会室で安否情報 集約(安藤・理事 長)	エレベーター閉込めな け、非常セットの使用 (停電なら)夜間発電機 共用廊下照明 緊急対応 AED 応急 病院搬送 電気、水、ガス、下水 でも、余震が危険なら 等で立入禁止処置
		食糧不足 防災拠点からの 物資運搬	【食料・物資関連】 物資対策 避難所到着物資対 策 物資の分配対応 要援護者物資支援	マンションとして食糧備 蓄は行わないこと、個人 備蓄、循環備蓄の呼び かけ ローリングストックを呼び かけ	1 集会室の備品展示・ 説明 2 災害時の食事の工 夫訓練 ビニール袋調 理など 参加者体験訓練		
全居住者		家具転倒下敷き 食器・ガラス等 での負傷 脱出不能 火災 トイレ使用不能 電気	自身・家族の安全確保 初期消火・救出活動 可能な方は館内の支援 ボランティア	家具固定 備蓄 水一人一日4ℓ ×7日分(最低) 食糧備蓄(理事会は 備蓄しません) 応急手当て対策 防災情報への協力	安否確認訓練への 参加 訓練に極力参加	共用廊下に出て、 近隣の安否確認	初期微動・緊急地震 速報で安全スペース へ家族・ペットの安全 確保 出火防止 近隣(同じ階)の安否 確認 火災・負傷・要救出 の場合、災害対策本 部に知らせ、協力
					技能訓練に参加		
管理会社・管理人		管理人勤務中の発災 勤務時間外の発災	居住者の安全確保補助 エレベーター閉込め対 応 早期復旧対応	人命救助支援 迅速な復旧	視察して支援(フロント)	訓練実施支援・参加	館内放送等支援 エレベーター閉込め確認 危険箇所確認
連合町内会・地域防災拠点		避難者想定外 場所取り合い 感染症拡大	避難所開設と運営 地区の防災センター機 能	耐震化・家具固定推進 在宅避難・備蓄の啓発 学校職員との開設範 囲、鍵の協定	避難所開設訓練 感染症対策訓練 ゾーニング訓練	地域防災拠点訓練	各自治解答での安否確 認・初期消火

(年 月現在)

〇〇マンション管理組合理事会・自治会

原案:未来防災NET 防災士 鷲山龍太郎

3時間以内	当日夜まで	第二日目まで	三日目まで	十日後まで	三週間まで	三ヶ月まで
<p>観測で、災害対策本部と家族の安全確保を集めて集会室へ。</p> <p>区域避難場所(〇〇公園)を示さない。(個人の都合がない。)</p>	<p>対策本部にて情報集約翌朝までの対応方針決定</p> <p>居住不可能世帯は、防災拠点受け入れを要請</p> <p>トイレ対策指示徹底「確認できるまでトイレパックを使用し、BOS袋で</p>	<p>当面の対応方針確立</p> <p>管理会社と連絡を取り合い、支援要請</p>	<p>防災拠点に支援物資の直接配送を依頼</p> <p>不可なら、リヤカー等で</p>	<p>中期的対応方針確立</p> <p>区分所有者への連絡体制を確立</p>	<p>罹災証明、地震保険の対応方針確立</p> <p>応急修理制度(住める場合)「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)の活用</p>	<p>マンション修繕計画のための「復旧委員会」開催</p> <p>「復旧総会」に向けて計画</p>
<p>ネット、テレビ、ラジオ等による防災情報収集</p> <p>見取り図で、安否情報集約</p> <p>通電なら、館内放送で情報共有</p>	<p>病院・診療所開設の情報収集・伝達</p> <p>住民の被災状況、避難情報集約</p> <p>通電なら館内放送で情報共有</p>	<p>停電なら掲示板、口コミで伝達、</p> <p>エレベーター、水、物資、トイレ等の情報確認・伝達</p> <p>部屋の被災状況、住民避難状況についての情報収集</p>	<p>住民の安否情報整理</p> <p>汚物や生ゴミ等の取り扱いを、掲示板表示、ドアポストに投函</p> <p>通電なら、館内放送で情報共有に努める</p>			
<p>館内見取り図を持って安否確認情報収集</p> <p>ヘルメット(ライト付き)、バール、ハンマー等で救出活動</p> <p>閉込め・火災確認すれば、隣家からバルコニーに進み確認</p>	<p>危険世帯は防災拠点へ誘導</p> <p>禁止事項の書面をドアポストに投函。</p>	<p>家具転倒、ガラス散乱など支援が必要な世帯に、館内ボランティアを募って対応</p> <p>火事場泥棒対策</p>				
<p>中等症者以上の病院搬送手配</p> <p>2時間以上家具に挟まれた人は、クラッシュ症候群を疑い。拠点病院搬送。</p>	<p>中等症以上、医療を要する人の病院搬送</p> <p>居住困難者の情報収集</p> <p>要支援で居住困難なら避難所に誘導、特別避難所搬送相談</p>	<p>要援護者の把握、共助、支援体制</p>				

<p>ら、業者連絡、声が呼びかけ</p> <p>幾起動・投光器で館内</p> <p>手当て 負傷者搬送</p>	<p>排水管点検・使用の可否を掲示・伝達</p> <p>集会室トイレ便座にビニル袋をかけ、トイレパック用意</p>	<p>地下水タンクからの給水体制(塩素濃度測定し、塩素あれば、飲料水可。塩素0なら生活用水へ)</p> <p>トイレ使用不可ならトイレパック配布?</p> <p>トイレパック・BOS袋の使用よびかけ配付</p>	<p>マンション受水槽の塩素0なら、防災拠点からの水供給体制構築。</p>	<p>トイレゴミ出しルールを徹底</p>	<p>応急トイレは十分か?</p>	<p>ライフラインの復旧状況に応じた対応</p>
<p>状況点検通電してい</p> <p>危険箇所は虎ロープ</p>	<p>発電機で、エントランスから、廊下を歩ける程度にライティング(ガスボンベ循環備蓄)</p>	<p>必要な物資は、地域防災拠点に要請</p>	<p>区の支援物資拠点から物資の直接配送を依頼</p>	<p>個人備蓄ある世態も底をつくので、集会室を拠点に物資を分配できる体制づくり</p>		
<p>ドアにマグネット表示(青=OK 黄色=不明 赤=要救護・検索)</p> <p>通電なら館内放送で同じ会で安否確認</p> <p>可能な人は、二次災害に気をつけて、救出、救護活動に協力</p>	<p>家に住める状況の人→</p> <p>トイレ、水、夜間の照明などの準備を整えて準備。</p>	<p>共助体制に協力して生活メイツのルール遵守</p> <p>要援護者への支援</p>	<p>ライフライン確立までの在宅被災生活確立</p> <p>館内ボランティア</p>	<p>可能な人は、要援護者への水、食糧対策等への館内ボランティア</p>	<p>応急修理制度(住める場合)</p>	<p>区分所有者は、マンションの臨時総会等に参加して、生活再建を検討</p>
<p>家に住めない状況の人→</p> <p>非常持ち出し品、寝具をまとめて防災拠点生活(小学校)準備</p>	<p>メイツの居室の整理・火事場泥棒対策</p> <p>メイツ・防災拠点のルールを遵守し、協力して生活</p>	<p>ライフライン確立、自宅生活可能にする努力。</p> <p>館内ボランティア要請・</p>	<p>「民間賃貸借り上げ制度(住めない場合)の活用</p>			
<p>安否確認支援</p> <p>エレベーター使用停止</p> <p>危険箇所立入禁止処置</p>	<p>勤務時間終了後帰宅</p> <p>電気・水道対策</p> <p>被害報告</p>	<p>復旧湯対策</p> <p>応急修理</p> <p>ゴミ対策</p>	<p>復旧方針確認</p>	<p>中期的対応方針確立</p>	<p>修理見積もり</p>	<p>復旧計画立案支援</p>
<p>震度5強以上で開設</p> <p>役員集合 安全確認の上開設</p> <p>学校連絡調整者と連携</p>	<p>トイレ開設 発電投光</p> <p>受付(避難者カード)</p> <p>避難者・感染者トリアージ</p> <p>ゾーニング表示 誘導</p>	<p>ゾーニング調整</p> <p>行政・学校職員支援で避難所運営体制確立</p> <p>各班組織始動</p> <p>区対策本部とのデジタル</p>	<p>家に住めなくなった人の生活継続体制確立</p> <p>受水槽からの水確保</p> <p>衛生体制確立</p>	<p>学校授業再開に向けた避難者スペースの縮小</p>	<p>みなし仮設、災害仮設住宅等への送り出し</p> <p>学校授業再開</p>	<p>行政と復興計画協議</p> <p>復興計画参画</p>